

1 本研究のまとめ

特別な教育的ニーズにこたえる学習指導を具体化するため、R-PDCAサイクルに基づき、アセスメント、具体的な指導・支援、評価に基づく学習指導の改善、連携に基づく学習指導の4項目を研究内容に掲げ取り組んできた。各項目に関するまとめは以下のとおりである。

(1) アセスメントの実際

教師の気付きから実態把握、つまずきの要因の把握から必要な指導・支援の手だての検討までをアセスメントとしてとらえ、そのプロセスを明らかにした。また、児童生徒の認知の特性から具体的な手だてを検討する場合には、アセスメントシート（試案）を活用することによって適切な指導・支援の方針を導き出すことができるようになった。

(2) 学び方の違いを踏まえた具体的な指導・支援

一斉指導において行われる、授業に対する見通し、分かりやすい言葉掛け、学習環境の工夫などの配慮を学習指導のユニバーサルデザインを踏まえた工夫としてとらえ、一次的な指導・支援とした。さらに、学習に困難がある児童生徒一人一人の得意とする情報入力や処理を積極的に活用したり、不得意な部分に配慮した指導をしたりして、学習面のつまずきを積極的に改善する取組を二次的な指導・支援とした。これにより一斉指導の中での的確に個に応じる構造的な取組を具体化することができた。

(3) 授業改善につながる学習指導の評価

授業改善に結び付けるために、学習指導のユニバーサルデザインを踏まえた工夫ができていたかという観点と、学び方の違いに基づく指導・支援が適切であったかという二つの観点から評価を考えた。これは、先の指導・支援において構造的に取り組むことに依拠したものである。特に、児童生徒の目標達成の状況とその評価に基づき実態把握や分析、手だての妥当性を評価し、今後に向けた見直しを行うことを目的とした評価を考えたことにより、評価の在り方はより体系的に行えるようになった。

(4) チームや連携に基づく学習指導の在り方

学校全体で取り組むという共通認識を基盤にもち、教師間の協力体制を構築するために児童生徒の情報の共有を目的とした情報シートや個別の指導計画の活用、また、ティーム・ティーチングにおける事前打ち合わせや授業後の評価の確認、授業展開の在り方などについて実践を深めることができた。

2 今後の課題

学び方の違いに基づき、具体的な指導・支援の方針を考える方略として今回、アセスメントシート（試案）を作成した。しかし、つまずきの把握、つまずきの要因から見立てまでの過程に関する道筋や裏付けについては、アセスメントシート（試案）を活用した実践が十分に組み込まれていないこともあり、今後、実践を重ねる中で改善を図りながらその内容の精度を高める必要がある。そのほか、多くの学校でも取り組まれている特別な場で行われる個別指導を、通常の学級で行われる一斉指導との関連でとらえることも必要になる。一斉指導における個別指導が充実することにより、特別な場における指導内容の検討は新たな課題として浮かび上がることも予想される。

上記の内容を本研究における課題として以下に集約し、その改善に努めたい。

- 作成したアセスメントシート（試案）を活用した実践を積み重ね、一斉指導において有効に機能するか更に検証する必要がある。
- 個別的な体制における学習指導の在り方を検討し、一斉指導場面での指導との関連付けを図る必要がある。